

資料提供(投げ込み) 令和3年1月4日(月)	
場所 津市政記者室	
事務担当課	
所 属	職・氏 名
消防本部 予防課 (電話059-254-0356)	予防担当参事(兼)予防課長 (兼)違反指導担当副参事 岡 孝明

## 令和2年の火災・救急・救助概況について(速報)

令和2年中の津市内における火災・救急・救助概況の速報は、下記のとおりでした。(令和2年中の数値は速報値となります。)

### 記

#### 1 火災(担当: 予防課違反指導担当/電話059-254-0356)

令和2年中に市内で発生した火災は103件で、そのうち住宅火災は27件でした。また、火災による死者は5人で、住宅火災による死者は4人でした。

火災原因については、全体では「放火の疑い」、「たき火」、「火入れ」の順に多く、住宅火災では、「放火の疑い」が最も多く、続いて「ストーブ、こんろ(同件数)」でした。

これを踏まえ、放火対策やたき火からの延焼、ストーブの取扱い、こんろの消し忘れなど、注意すれば防げる火災を起こさないように広報紙やイベント等、機会を捉えて広報するとともに、住宅火災で亡くなる人の多くは高齢者であることから、逃げ遅れによる死傷者を無くすために、住宅用火災警報器の設置及び維持管理について普及啓発に努めていきます。

#### (1) 火災概況

▲は減を示す

区 分		令和2年	令和元年	増減
火災件数合計(件)		103	115	▲12
火災 種別 (件)	建 物 火 災	43	54	▲11
	(内) 住宅火災	27	27	0
	林 野 火 災	3	6	▲3
	車 両 火 災	11	10	1
	その他の火災	46	45	1
死 者 (人)		5	4	1
(内) 住宅火災		4	3	1
負 傷 者 (人)		5	10	▲5

(2) 参考（平成23年以降の年間火災件数）

年	件数
令和2年	103
令和元年	115
平成30年	135
平成29年	121
平成28年	112
平成27年	117
平成26年	122
平成25年	168
平成24年	127
平成23年	108

## 2 救急（担当：消防救急課救急担当／電話059-254-1600）

令和2年中の市内における救急出動件数は14,242件で、前年と比較して1,657件の減少となりました。

種別でみると、例年同様急病が9,189件と最も多く、次いで一般負傷の2,461件、交通の933件の順となっています。

救急出動の減少は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う外出自粛の影響や、多くの市民が感染症予防策に取り組んだことにより、感染症にかかる人が減少したことが要因の1つとして考えられます。

消防本部としては、救急搬送体制の充実・強化に取り組むとともに、引き続き救急車の適正利用についても理解と協力を呼びかけます。

また、救急車を要請するか迷った場合の相談先として、三重県救急医療情報センターや津市救急・健康相談ダイヤルの活用について広報します。

### (1) 救急概況

▲は減を示す

区 分	令和2年	令和元年	増減
出動件数（件）	14,242	15,899	▲1,657
搬送件数（件）	12,866	14,482	▲1,616
不搬送件数（件）	1,376	1,417	▲41
搬送人員（人）	12,953	14,607	▲1,654

### (2) 救急種別件数

（単位：件） ▲は減を示す

種 別	令和2年	令和元年	増減
火 災	7	12	▲5
自然災害	0	3	▲3
水 難	9	14	▲5
交 通	933	1,160	▲227
労働災害	127	153	▲26
運動競技	26	77	▲51
一般負傷	2,461	2,590	▲129
加 害	47	52	▲5
自損行為	89	102	▲13
急 病	9,189	10,102	▲913
そ の 他	1,354	1,634	▲280
合 計	14,242	15,899	▲1,657

(3) 参考（平成23年以降の年間救急出動件数）

年	件数
令和2年	14,242
令和元年	15,899
平成30年	16,445
平成29年	14,901
平成28年	14,716
平成27年	14,306
平成26年	14,229
平成25年	14,196
平成24年	13,849
平成23年	13,066

3 救助（担当：消防救急課消防救助担当／電話059-254-1601）

令和2年中の市内における救助出動件数は149件で、前年に比べ38件減少しました。

種別でみると、最も多かったのが交通事故の66件で全体の44パーセントを占め、過去数年、最も多くなっています。

また、建物等による事故は49件発生しています。前年に比べ4件減少しましたが、交通事故に次いで2番目に多い原因となっています。その原因の多くは、「高齢者が建物内に居るが外からの呼びかけに応答がない」というものでした。

(1) 救助概況

▲は減を示す

区 分	令和2年	令和元年	増減
出動件数（件）	149	187	▲38
活動件数（件）	85	112	▲27
救助人員（人）	86	116	▲30

(2) 救助種別件数

（単位：件） ▲は減を示す

種 別	令和2年	令和元年	増減
火 災	0	1	▲1
交通事故	66	82	▲16
水難事故	7	17	▲10
風水害等自然事故	0	0	0
機械による事故	1	3	▲2
建物等による事故	49	53	▲4
ガス及び酸欠事故	1	0	1
破裂事故	0	0	0
その他の事故	25	31	▲6
(内) 山岳	2	11	▲9
合 計	149	187	▲38

(3) 参考（平成23年以降の年間救助出動件数）

年	件数
令和2年	149
令和元年	187
平成30年	138
平成29年	129
平成28年	137
平成27年	105
平成26年	126
平成25年	130
平成24年	113
平成23年	116